

# 背景・課題認識

---

## 現状と経緯

---

- ・ 定刻の出荷データ送信業務

現在は手動対応を中心に行っている。

- ・ 自動化への取り組み状況

過去にPower Automate Desktop (PAD) による検証を実施済み。

技術的に自動化が可能そうであることは確認されている。

## 課題

---

- ・ 出荷データ送信業務により担当者が拘束されてしまう

- ・ 実行環境の影響、拠点差分による複雑化、定期実行時の例外発生等の要因により、安定的に運用できる構築が難しい

# 出荷データ送付業務の Before / After

## Before (現状)



### 毎日定時後に手動対応

担当者が定刻に業務拘束される状態

### 人手による作業

データの取得、ファイル確認、メール作成

### ヒューマンエラーのリスク

送付漏れ、遅延、宛先間違いの懸念



## After (システム導入後)



### タスクスケジューラが自動起動

定刻に正確に処理を開始

### 全工程を自動化

ファイル取得からメール送付まで無人で完結

### 結果の可視化

送付結果（成功／失敗）を自動通知

#### 導入効果

出荷データ送付業務を完全に自動化することで、  
確実な業務遂行と効率化を実現します。

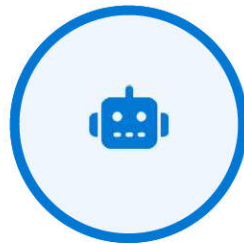
- ✓ 担当者様の作業工数を削減
- ✓ 定時後作業・時間拘束からの解放
- ✓ 業務の安定化・属人化の排除

# 導入後の業務フロー

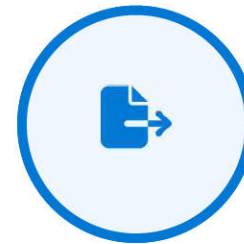
## 自動化業務フローイメージ



**タスクスケジューラ**  
自動起動



**PAD**  
自動処理実行  
※自動でファイルを取  
得し、メール送付



**ファイル移動**  
※送付したデータを  
送付済みフォルダへ移動



**通知**  
メール送信  
(成功可否)

# 実施内容の詳細

自動化を実現するための4つの重要な設計ポイント

## 01 タスクスケジューラ実行設計



引数連携による制御 処理モードや対象日時を引数で渡し、単一フローで多様なパターンに対応。

堅牢な自動復旧 端末再起動後もタスクスケジューラが自動的にジョブを認識し、実行を継続。

## 03 環境差分対応 (2拠点)



パラメータ化による管理 刈谷・常滑のパスや設定値の差異を設定ファイルに外出しし、ロジックを共通化。

メンテナンス性の向上 将来的なフォルダ構成変更時も、フロー修正不要で設定変更のみで対応可能。

## 02 例外系・再実行設計



失敗を前提としたハンドリング 通信エラーやデータ遅延発生時も、即時停止せずリトライや安全な中断を行う。

冪等性の確保 再実行時にデータが重複したり矛盾したりしないよう、安全な再開ロジックを実装。

## 04 ドキュメント整備



成果物の提供 簡易設計書（フロー構成図）および導入手順書（インストール・運用）を納品。

内製化支援 導入後、ベンダーに依存せず御社内で微修正や運用が可能な状態を確立。